

富山県立小杉高等学校活動報告

◆活動取組みの紹介

私たちボランティア委員会のスローガンは「射水市に感謝を込めてボランティア」です。本年度は、私たちの身近においても、大きな災害が発生するなど「助け合い」を必要とすることが多くありました。私たち、ボランティア委員会は、自分たちができることを考え、ボランティア活動を行うことを心がけました。

●令和6年能登半島地震災害義援金に関する募金活動

日時：令和6年1月15日（月）～19日（金）

参加者数：小杉高校ボランティア委員会28名と生徒会執行部13名、有志6名

今年は、赤い羽根共同募金ではなく能登半島地震の発生を受け、災害義援金のための募金活動を5日間行いました。朝は生徒玄関にボランティア委員と生徒会が立ち、募金への協力を呼びかけました。昼休みには、募金の呼びかけを放送で行い、全校生徒に対して活動への協力を呼びかけました。さらに、食堂にも募金箱を設置して、多くの人に活動を行っていることを周知できるようにしました。たくさんのご協力のおかげで委員と生徒会で行った募金活動では76,200円の協力を得ることが出来ました。さらに、学校祭での売り上げでは104,103円を合わせて、合計180,303円を寄付することが出来ました。

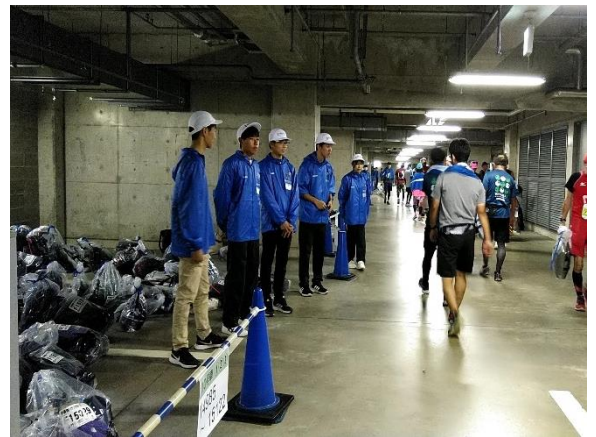
（ボランティア委員長）



↑射水市庁舎にて義援金の贈呈式

◆活動していてやりがいや喜びを感じる時

僕は富山マラソンのボランティア活動でボランティアをすることの良さを学びました。その理由は2つあります。1つ目は、ボランティアを通して自分自身が元気をもらえることです。荷物渡しをしていた時に、マラソンを終えて疲れているにも関わらず荷物を渡すと笑顔でありがとうと感謝されて自分までも元気をもらうことができたことです。2つ目は、コミュニケーション能力が身につくところです。ボランティアを行っている時、様々な年代の人たちと話す機会が多くありました。そのような会話を通して、コミュニケーション能力の向上を実感できました。（ボランティア委員2年生）



↑富山マラソン2023での様子

◆最後にひとこと

今年度もボランティア委員会の活動にご協力いただき、有難うございました。「ボランティア活動」はよく「無償の奉仕活動」ととらえられがちですが、本当は「自発的な意欲による行動」のことを指すようです。今年度は、ボランティア委員中心に自発的に行動し、災害義援金などに参加しました。私たちが様々な活動に自発的に行動できたのは、委員以外の人たちも私たちの考えに賛同し積極的に行動に移してくれる支えがあったからです。これからもボランティア委員会中心となって積極的にボランティア活動に取り組んでいきたいと思っております。

（ボランティア副委員長）